

海上自衛隊鹿屋航空基地への米陸軍ミサイルシステムの一時展開 に関する知事コメント

国においては、我が国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、防衛力の抜本的強化を着実に具体化するとしており、こうした国の考え方については、理解し得るものであると考えています。

防衛・安全保障政策は国の専管事項であります。県としては、本県内での訓練の実施等に当たっては、住民の安心・安全の確保や、訓練実施地域となる市町村の理解が最も重要であると考えています。

そのため、県では、来月から行われる「米国主催多国間共同訓練（ヴァリアントシールド2026）」及び本年9月に実施される「令和8年度米豪軍との実動訓練（オリエント・シールド26）」に、米陸軍のミサイルシステムが参加し、訓練期間中や撤収に要する期間を含め、本年6月から10月中旬の間、同システムが鹿屋航空基地に一時展開する旨の説明が、本日、九州防衛局からなされたことを受け、「訓練の実施に当たっては、地元の意向を尊重するとともに、住民の安心・安全の確保に万全を期すること。特に、鹿屋航空基地での訓練におけるミサイルシステムの一時展開に当たっては、住民の安心・安全の確保に万全を期するとともに、一連の訓練の期間終了後（撤収作業に要する期間を含む）、速やかに撤収を行うこと」を要請しました。

併せて、「事件・事故等の発生防止に万全を期すること」、「訓練の詳細については、適宜、情報提供を行うこと」「米軍関係者の活動について、事件・事故等の発生防止に万全を期するよう米軍に働きかけること」などについて要請しました。

国においては、県の要請を十分に踏まえ、しっかり対応していただきたいと考えている。

令和8年5月22日

鹿児島県知事 塩田 康一